

# 令和3年度 コミュニティ・スクール福津市立福間中学校 学校経営要綱

コミュニティ・スクール福津市立福間中学校  
校長 竹原 誠

## 1 福間中学校区の経営基盤

- (1) 公教育としての学校
- (2) 現代社会の要請に応える学校
- (3) 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要な力を育成する学校
- (4) 学校・家庭・地域で共育を推進する学校



- ① 日本国憲法及び教育基本法をはじめとする関係諸法規、並びに教育課程の基準である学習指導要領に則した教育に努めるとともに福岡県教育施策、福岡教育事務所重点課題及び福津市教育施策に基づいた公教育を行う。
- ② 変化の激しい現代社会において、国が予想する2030年の社会で活躍できる人材の育成を目指し、新しい時代に必要となる資質・能力を身につけた人間性豊かな逞しい子どもの育成を重視する。
- ③ 基礎的・基本的な知識・技能の習得を基盤とし、思考力・判断力・表現力の育成を図り、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性を汎用する。
- ④ 子ども一人一人にしっかり寄り添い、子ども一人一人のよさや可能性の伸長を図る教育を展開する。
- ⑤ 多様な価値観や文化で構成されている社会において、個人としての権利と責務を行使し、よりよい社会の実現に寄与するという目的のために、10年後福津市で生きる市民性を育成する教育活動を推進する。**(シティズンシップ教育の推進)**
- ⑥ これまで培われてきた文化と伝統を継承し、新たなコミュニティ・スクールとして、福間中学校区小・中学校が一体となり、お互いの双方向の関係構築に努め、9年間を見通した特色ある学校づくりをすすめる。**(小中の接続重視・未来につながるCS)**
- ⑦ コミュニティ・スクールとして、地域社会の特性を踏まえ、現代社会の要請並びに保護者や地域の要望、子どもの実態に応じ、それぞれの願いの具現化を目指す。**(地域学校協働活動の推進)**
- ⑧ **カリキュラム・マネジメント (教科横断的な教育活動の推進・PDCAサイクルを確立した学校改善・人的物的資源の活用)**の推進を通して、社会に開かれ、社会を開く教育課程を創造する。
- ⑨ **スピードダウン (教育活動のスクラップ&ビルド) ・リフレクション (教育活動や組織の再構築) ・コミュニケーション (対話を通じた協働態勢の確立)**を重視した働き方改革を推進する。

## 2 福間中学校区の共育目標

- (1) 共育目標

『福津を愛し、健やかで、未来に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成』

～学校・家庭・地域が連携・共働し、地域の活性化と子どもの社会力の育成を

目指す新化期コミュニティ・スクールの創造～

## (2) 共育目標に対する考え方

### ①「福津を愛し、健やかで」

福津の豊かで恵まれた自然や環境、歴史や文化とのつながりを生かした学びを通して、ふるさと福津のまちづくり・人づくりを発信できる行動的な市民になってほしい。また、学校・家庭・地域が連携・共働した新たなコミュニティ・スクールの推進を通して、子どもたちが自分自身のよさを発見し、自信と誇り、相手を思いやる心や協力・協働の心を持ち、自己存在感を高め、他とかかわる楽しさを見だし、互いを認め合い共に生きていこうとする自他尊重の心や態度を培ってほしい。

### ②「未来に向けて意欲的に学ぶ」

持続可能な社会の担い手として、教育活動を通して社会力を身に付け、10年後の福津市で生きる市民性を育ててほしい。

### ③「学校・家庭・地域が連携・共働し、地域の活性化と子どもの社会力の育成を目指す」

これからの社会がどんなに変化しても予測困難になっても、学校・家庭・地域のそれぞれの役割を明確化し連携・共働を図っていくとともに、それぞれが目標を共有し、特にコミュニティ・スクールの活動においては、大人が子どもへの関わり方を見直すとともに、子どもがやや困難な課題や目標を設定し、周りの人から最小限の支援を受けつつ自らの力で解決に挑み、指導者や子ども同士がその頑張りをほめ、認めることを繰り返しながら、子どもの学ぶ意欲や自尊感情、向上心やチャレンジ精神、勤勉性や困難に立ち向かう心を伸ばしてほしい。

## 3 目指す具体像（子ども像・学校像・教師像・授業像・家庭像・地域像）

### (1) 目指す子ども像（人間力を鍛える）

本年度は、子ども・教師・家庭・地域の全員が、めざす子どもの姿を言えるようになる。

- <自立>自分で考え、自分で判断、自分で決定、失敗を恐れずに自分から行動できる子ども
- <共働>コミュニケーションを大切にし、周りの人とよりよく関わろうとする子ども
- <参画>福津を愛し、よりよい地域づくりを考え、積極的に取り組もうとする子ども

### ☆福間中学校区の目指す中学3年生像☆

「自ら考え、情報を選択でき、主体的に行動できる福中3年生」

### (2) 目指す学校像（学校力を鍛える）

- 思いやりに満ち、あいさつの声が響き渡り、教育環境が美しく整備されている学校
- 文化と伝統を受け継ぐとともに、故郷を大切にしながら未来に向かって挑戦する学校
- 礼節や謙虚さを大切にし、地域に貢献し、地域づくりに積極的に参画する学校

### (3) 目指す教師像（教師力を鍛える）

- 児童生徒理解の視点に立った指導をし、目配り・気配り・心配りができる教師
- 教育への使命感と情熱を持ち、常に学び続け、子どもの長所や可能性を伸ばす教師
- 心身ともに健康で、学校経営参画意識を持ち、協働して教育課題の解決に努める教師  
※教育公務員としての自覚と責任を再認識し、体罰、セクハラ、飲酒運転、個人情報流出防止や公金の適正管理等の不祥事防止に努める。

### (4) 目指す授業像（教師力を鍛える）

- 「何を学ぶか」「どのように学ぶか」が明確な授業実践（主体的・対話的で深い学びの実践）
- 生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の

育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の涵養を目指す授業実践

**(5) 目指す家庭像（自立心を鍛える）**

- 子どもが自立できるように学校と協働しながら、子どもに基本的な生活習慣を身に付けさせる家庭
- 子どもとの対話を心がけ、温かいかわりの中で子ども自身に考えさせる家庭
- コミュニティ・スクールを理解し、学校・地域と共働して具体的共育を推進する家庭

**(6) 目指す地域像（社会性を鍛える）**

- 子どもが地域・社会の担い手となるように、地域の中で社会道徳と共助の精神を涵養し、自己存在感を高揚させる地域
- 学校・家庭と連携協働し、「地域は学校の応援団、学校は地域の応援団」、winwinの関係づくりを推進する地域

**4 教育課題と経営課題**

**(1) 教育課題（子どもや教職員に解決を期待したい課題）**

- 9年間を見通した学力の向上及び子どもの実態に合わせた質の高い授業への改善
- 不登校・別室登校の子ども・支援を要する子ども等の増加傾向と性の多様性に関わる今後の対応
- 生徒指導・問題行動への迅速で的確な対応及び道徳的な心情や態度などの育成

**(2) 経営課題（学校組織として解決したい課題）**

- 子ども・教員増等に伴う組織運営の改変と働き方改革
- 若年層・講師の人材育成及びミドルリーダーの育成
- 新化期としてのコミュニティ・スクールの進展及び更なる小中連携の推進

**5 令和3年度 学校経営の目標**

**小中9年間の接続の重視と未来につながるコミュニティ・スクールの推進**

『学校教育の基盤』

- 小中一貫型のコミュニティ・スクール

『教育活動の基盤』

- 対話・自立と共働と参画・「鍛ほめ福岡メソッド」の展開（大人のかかわり）

『指導の基盤』

- 基本的な生活習慣を徹底指導します。

**【私達は生徒会が定めた「五つの誓い」を徹底させ、子どもを支援します。】**

- ① 校時を守る（授業に真剣に取り組む）
- ② 清掃作業は全員で行う
- ③ 公共物は大切に使う
- ④ 仲間を大切に使う（差別を絶対にしない）
- ⑤ 言葉遣いを正しくする

**【私達は、規律の遵守と見届ける指導を徹底します。】**

○児童生徒理解の視点に立った指導をします。

**【私達は、学校、言語環境の充実を目指します。】**

- ① 校内環境整備と対話重視
- ② 安心安全
- ③ 伝達から交わりへ
- ④ 目配り・気配り・心配り

『小中連携の基盤』

○福間中ブロック三校「共働」の教育活動の推進をします。

キーワード：「つなぐ」「そろえる」「つどう」

「つなぐ」（カリキュラムをつなぐ）

- 9年間の見通した特色あるカリキュラムの編成・実施
- 児童生徒指導（不登校含む）及び特別支援教育の視点からの連携
- 早期段階からの系統的な外国語教育 など

「そろえる」（学びをそろえる）

- 学年段階に関係なく同一歩調で指導することの共通理解・共通指導（生活のきまり、授業のユニバーサルデザイン化、学習のきまりなど）

「つどう」（小中でつどう）※できるところから

- 相互理解を深めるための教職員交流
- 小小・小中の連携交流（あいさつ運動など）
- 子どもの地域行事・学校運営協議会への積極的参加・参画
- 保護者・地域住民の学校教育への参画 など

6 本年度の重点目標（未来につながるコミュニティ・スクール）

**生徒が「自立・共働・参画」の精神を有し、**

**福津市の未来を切り拓くシティズンシップ教育の推進**

**～10年後の福津市で生きる市民性の育成を通して～**

【めざす子どもの姿】

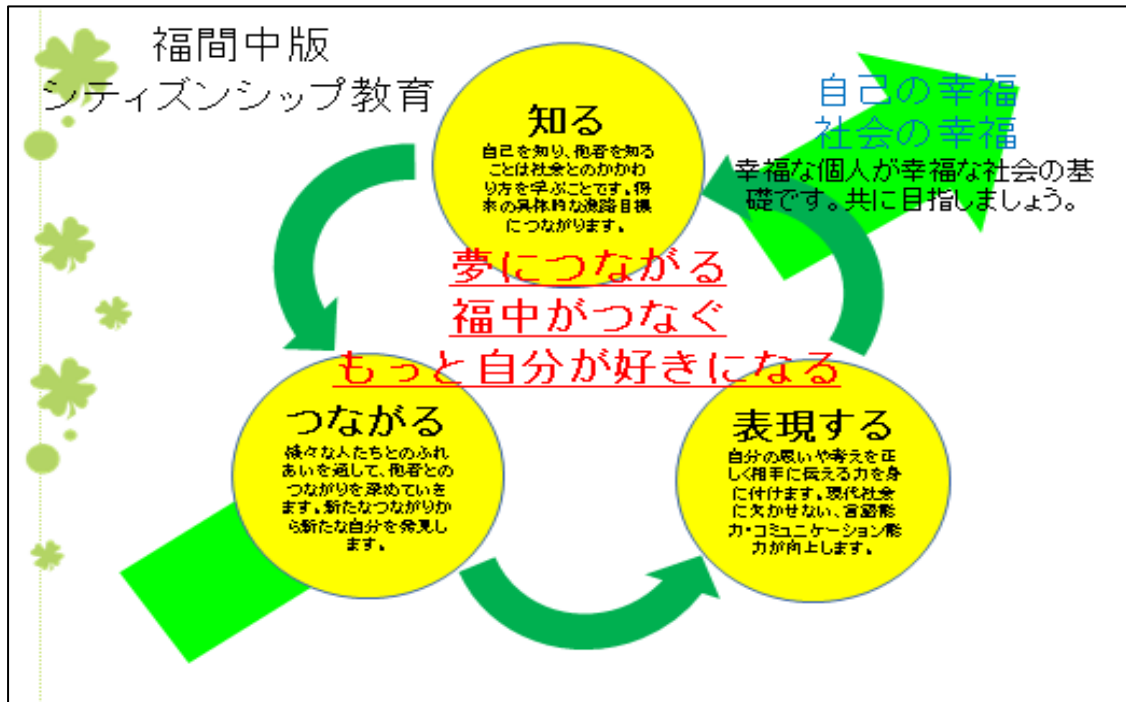
「自立・共働・参画」

「自立・共働・参画」の精神を有する生徒とは、「学力」「体力」「心力」を基盤として、将来への夢をもち、どんな困難にも継続した努力で挑戦し、他者との適切な関係を築き、個性を発揮し、自己実現を図りながらよりよい社会づくりに関わる力「社会力」を有した子どものことです。

※ 社会力とは、様々な人と良い関係を作ることができ、その良い関係を維持しながら、福津市民であるという自覚をもって、自分が学んだ知識や身に付けた技術を自分が生活している場所で進んで発揮することができる能力。中学生段階では、よりよい社会を創ろうという前向きな意識と意欲があり、そのために何をすればいいのかを自分で考え、考えたことを実行に移すことができる力（構想力や実行力）が加わる。

【シティズンシップ教育】

シティズンシップ教育とは、福津市民として必要な要素を備え、市民として役割を果たせるようになることを目指す教育こと。



シティズンシップ教育を通して身に付けさせたい力は、社会の問題に主体的にかかわる力、自分なりに社会との関わり方を考えることができる力です。今後、多文化社会が到来し、様々な価値観を持った人々が暮らす中、それぞれの価値観を尊重して行動したり、互いの利害を調整しながら、社会の課題に取り組んだりする態度を育成する必要があると考える。

このことを踏まえ、本校では、すべての教育活動において、日常的、継続的な実践を通して、自己中心的な考えではなく、社会との関係を捉えさせるとともに、自分の信念、価値観をもって常に人生の意味づけを考えながら生きる人間の育成を目指す。

そのために、福間中学校の教育課程を見直し、系統化させながら学校教育目標の達成をめざします。これまで実践してきた教育活動の目的目標を再確認するとともに、各教育活動の系統化をはかりながら、社会に開かれた教育課程の創造を推進するとともにシティズンシップ教育を通して社会を拓く教育課程の創造を行っていきたいと考える。

シティズンシップ教育の展開には、福津市民としての3つの重点と9つのねらいを位置づけ、小学校の教育活動とあわせて各教科活動等を系統化させ、学校教育目標への方向性を明確にして全職員で浸透と徹底を図る。さらに、令和4年度に向けて教育課程の再構築を図り、令和4年度より、総合的な学習の時間をシティズンシップ教育推進の中核に据えて教育課程を進行させます。また令和4年度には、「知る」「つながる」「表現する」のそれぞれの段階で培われた力を合わせて、生徒一人一人が福津市への具体的な提言ができ、より良い社会を求めて参画することができる資質・能力を有する共育の推進体制の確立を目指していきたいと考える。

### 【福津市民としての3つの重点】

「知る」・「つながる」・「表現する」

### 【9つのねらい】

#### 「知る」

- ①主体的・対話的な学びを通して基礎的基本的な知識や技能を習得し、思考力、判断力、表現力を育成する授業改善を通じた学力向上を図る。
- ②議論する道徳、自発的自治的な学級活動を通じた心力の向上を図る。
- ③目標設定を通して課題解決へのチャレンジを通じた体力の向上を図る。

#### 「つながる」

- ④学ぶこと、働くこと、生きることを学び、自己のキャリア形成を図る。
- ⑤様々な教育活動を通して、基礎的、汎用的能力の向上を図る。
- ⑥地域と学び、地域で学び、地域の課題を考え、地域に貢献しようとする姿勢態度の育成を図る。

#### 「表現する」

- ⑦福津市の未来について、自分の意見を表明し、他者とのコミュニケーションをとりながら課題解決を目指すことができる。
- ⑧多様な立場になって考え、思考力を高めながら、福津市のあるべき姿について探索し提言することができる。
- ⑨学んだことを生かし、よりよい社会を求めて行動（参画）することができる。

## 7 重点目標達成のための経営の重点

- (1) 教育課程の改善
- (2) 校務分掌組織・学年組織の改善と組織運営の機能化
- (3) 教職員の人材育成
- (4) 小学校、家庭・地域と連携したコミュニティ・スクールの推進

## 8 課題解決のための具体的方策

### (1) 教育課程の改善

- 「総合的な学習の時間」や特別活動の単元の初めに目的意識を持たせる工夫、自ら考え、自ら学ぶための支援、単元の見通しを持たせる工夫、単元末に探求結果の発表（表現活動）・評価の場を設定するなど教科横断的な教育活動のカリキュラム編成を改善していく必要がある。（思考力・判断力・表現力の育成）
- 福津市民としての市民性を向上させるための、シティズンシップ教育の構造化と実践化の推進（知識習得型・シュミレーション型・体験型・プロジェクト型に応じた教育活動の配列、外的資源の活用を通じた実践、参加型共育の推進）
- 自尊感情や効力感を高めるため、授業や長期休業中の宿題、教育課程外の様々な活動における子どもの学習成果や努力そのものを評価する場の設定
- 生徒の実態に応じた指導と学校全体で決めたことの共通理解と徹底
- 個に応じた「学力向上戦略」の策定（個別の支援計画）〈まなび部〉

- 1人1台端末をはじめとするICT機器の活用による情報活用能力の育成と授業実践を市内小・中学校での先進的な実施〈まなび部〉
- 新しい学習指導要領の着実な実施（週案の定期的提出）〈まなび部〉
- 道徳科の実践指導力向上（校内OJTの実施）〈こころ部〉
- キャリア教育の推進（キャリアパスポートの活用）〈こころ部〉
- 人権・同和教育の推進（LGBTQを含む）〈こころ部〉
- 食育・体育等の目標設定を通じた取組の充実〈からだ部〉
- 地域貢献活動における適切な学習機会の提供と参画を図る場の確保と工夫  
〈地域貢献部〉

## （2）校務分掌組織・学年組織の改善と組織運営の機能化

- 学校・学年組織を機能させる報告・連絡・相談の体制構築と徹底、協働での指導・支援の徹底
- 学校行事や総合的な学習の時間における自尊感情や効力感を高める単元構成と評価
- 生徒指導、生徒支援、特別支援を中心とした会議・対応等の充実
- 業務改善（スピードダウン）を通じた働き方改革の推進（職員へのミッション厳選）
- 制服検討委員会による制服検討と作成推進

## （3）教職員の人材育成

- 目標設定および見通しを持たせ、「目標の達成」までの過程の評価を重視し、教職員一人一人のよさの伸長を図る
- 教科学習における本時の主活動の手順説明の時間短縮と主活動、授業のまとめの完全実施
- 管理職等による授業訪問及び生徒授業アンケートの結果を基にした授業改善の実施
- 生徒理解と特別な支援を要する生徒の理解と支援のための校内研修の実施
- 教育公務員・社会人としての基礎基本を高める校内OJTの実施
- 体罰によらない生徒指導、生徒とのより良い関係を築き、生徒の自己指導能力を高める指導、保護者との信頼関係を築く接遇の対応、アレルギー等対応などの危機管理研修の実施
- 飲酒運転、交通事故防止、薬物乱用防止、わいせつ行為、パワハラ、セクハラ行為防止等の不祥事防止研修の実施
- GIGAスクール構想の実現へ向けての研修会等の実施と早期実践

## （4）小学校、家庭・地域と連携したコミュニティ・スクールの推進

- 福間中ブロックの小中学校のできる範囲での児童生徒の交流、教師間交流や積極的な中学校に関する情報の提供
- 福間中ブロック小中連携推進構想の全職員への周知徹底
- 自立を育む大人のかかわり方の推進（未来につながるCS）
- 積極的な情報発信

## 9 成果指標

学校経営の評価にあたっては、多面的・多角的な評価となるように、教職員の自己評価はもとより、生徒や保護者のアンケート調査等を活用して客観的な評価に努める。特に次の5点については、成果指標とする。

- 学力テスト（全国学テを含む） 前回成績より向上
- 全国学テ生徒質問項目
  - 将来の夢や目標を持っていますか？ 80%
  - 自分には良いところがありますか？ 80%
- 学校評価アンケート
  - 保護者：良いところを褒め励ましている 95%
  - 教員：良いところを伸ばす指導をしている 95%
- 授業アンケート
  - めあてふりかえり指示説明教具教材小集団まとめ：3.5分かった・できたの記述の増加
- 三校共通学校評価
  - 重点項目の肯定的評価： 80%

### 令和3年度 コミュニティ・スクール 福津市立福間中学校 学校経営構想図

